

神奈川県立瀬谷支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 瀬谷支援学校 第2回 学校運営協議会
開催日時	令和7年11月13日(木) 14:00~16:00
開催場所	瀬谷支援学校 G棟
出席者	委員7名(本校校長1名を含む) ※1名欠席 事務局11名 ※2名欠席
会議資料	・各学部・各グループの重点課題の取組状況(中間評価) ・プレゼンテーション資料
議事録	<p>1 開会および校長挨拶 昨年度総授業時数を削減し、下校時刻の変更や行事の見直しをした。校外行事を減らさないでほしいという要望もある。働き方改革やDX化の推進にも取り組んでいく必要がある。「1人1台端末や電子黒板の導入」など新たな時代に向けた教育が求められる。児童生徒数も337人と増加しており、給食提供もひっ迫してきている。今日は各学部・分教室、校務グループから中間報告をさせていただき、忌憚ない意見をいただきたい。</p> <p>2 会長挨拶 「社会の変化も大きく、子ども達のより良い社会参加ができるよう手伝っていききたい。園芸博があり、旧上瀬谷通信施設跡地もテーマパークに変わる。瀬谷の雰囲気も変化しそうである。未来に備えたい。」と挨拶があった。</p> <p>3 各学部・各グループの取組状況 各学部長および分教室室長、各グループリーダーより、取組の中間報告があった。 <ul style="list-style-type: none"> ■小学部からはICTの活用、自立活動の視点を取り入れた授業について説明があった。 ■中学部からは、販売活動など、高等部につながる作業班の取組や、栄養士との連携による食育の取組について説明があった。 ■高等部からは、にんにく計画(上瀬谷小学校との交流活動、ガパオ祭りへの参加)や地域での清掃活動の取組について説明があった。 ■大和東分教室からはICTの活用(クロムブック、電子黒板)や進路指導(「就労パスポート」等のツールを活用した自己評価・他者評価)、地域との交流(大和東高校、本郷公園、ダイハツ、中屋敷地区センターでの活動)について説明があった。 ■大和南分教室からはICTの活用(学習活動の中での活用方法)や地域での清掃活動、大和南高校の文化祭への参加、外部講師の活用について説明があった。 ■教育課程グループからは、教科書の採択について、今年度より文部科学省のクラウドシステム上での一元的な管理・報告となったことについて説明があった。 ■連携支援グループからは「企業と語ろうinせや」の実施報告や、夏季公開講座など地域に向けた講演会の実施報告、センター的機能の取組について説明があった。 ■教育推進グループからは校内研究、ICT活用研修について報告があった。 ■総務管理グループからは水害を想定した垂直非難の実施について報告があった。 委員からは、ICTについて、「ボイスペンなどでICTをうまく活用できている。」「何を身に付けるかが大切であり、使うことがゴールではない」「これからはAIとロボットが発展し、子ども達は様々なことに慣れる必要がある。」「教員の仕事が楽になるよう活用していけるとよい。」といった意見があった。 </p> <p>4 各部会 ○学校評価部会 (1) ICTの活用について <ul style="list-style-type: none"> ■ICTに依存している子どもがいる。子どもによっては、端末の仕様がご褒美になっている。子どもは動画を見て多くのことを学ぶこともできている。 ■繰り返し取り組むことで、ルールを覚えていく子もいる。タイムタイマーで区切ったり、パーティションで区切ったりして、時間や場所を学ぶ。 ■自分の端末を自分で管理する。自分で充電し、「自分のICT機器」という意識をつけていった事例がある。 ■スフィード(iPadで動くロボット)の活用なども、子ども達の取組としてよいのではないか。 ■上瀬谷小学校では、PCをここ2~3年は授業の中で使っていたりいなかったりしているが、「自分で選べるようにする」流れになってきた。子どもの御褒美としての使い方も支援級で行っている。具体物の方が有効な子もいる。「考える力」を育てていくことが大切である。最近AIドリルが宿題で「親が様子を見ることができない」と保護者から話があった。上瀬谷小学校では紙ベースでの使用にしている。AIは作文づくりにはかなり有効であるが、書字指導がうまくいっていない。字が下手になる子ども、教員が増えている。AIとともに生きていくものと認識している。教員もひるまないほうが良い。 ■職員の教材、手本動画としてはかなりわかりやすく有効である。 ■手本動画が有効である。音楽で様々な楽器のものもあり、教員がいなくても手本として活躍してくれている。 (2) 働き方改革について <ul style="list-style-type: none"> ■会議の要約に活用し便利だった。 ■PTAの会議で、書きたいことを伝えると文章にしてくれる。絵を描いてくれたり。相談をすると優しく返してくれて、資料や他県の事例などを教えてくれている。自分の秘書のようである。 ■車を見てからでないと家に入れない子どもに、AIで絵カードを作った。10台絵カードを見たら家に入ることにした。 ■教員の不祥事防止に向けて、教員から写真を撮りたいと言われても、子ども達が拒否できるようなポスターを20代の教員がAIですぐに作った。 ■苦手な部分をどれだけ減らすかが働き方改革になっていく。PDFの要約もAIが組み込まれていてやってくれる時代。嘘を見抜く力が大事で、ファクトチェックが必要である。大学生のレポートは、AIの丸写し、ウィキペディアの丸写しがある。 ■学校にクラウドをつくり、そこに書き込んで書類ができる。教員が集まらなくてもチャットで内容共有すれば済む。それをどう管理するか。不正を校長が見抜く必要がある。 (3) 支援学校に求められるもの <ul style="list-style-type: none"> ■上瀬谷小学校に瀬谷支援学校の子が遊びに来ることはできないか。中屋敷保育園が散歩で来てくれている。 ■瀬谷支援学校と地域との温かいつながりをもっと意識して大事にしていくとよい。この土地だからやれることがある。地域が学校を利用して一緒に楽しめるとうい。 </p>

○切れ目ない支援部会

(1) ライフステージに沿った支援について

- バス介助をしていると、急に叫びだす子がいる。そうせざるをえない子どもの心理について考え、短期と長期の両面でのアプローチが必要である。どうしても行動を抑えようとしがちであるが、支援学校の教員に求められているのは、背景を捉え、本人に寄り添う指導である。
- 分教室の課題は人との距離感である。障害があるとは気づかれないことが多く、トラブルになることがある。公共のマナーは日常的に学べるようにしている。校外学習で公共の交通機関の路線バスを使って指導している。
- どのように一般の人に伝えたらよいか課題である。
- ヘルプマークを付けてくる生徒が増えている。手帳を申請した際にケアプラザや役所でもらえる。
- 社会マナーは学校だけでなく、社会人になってからも教える必要がある。
- ライフステージで考えると18歳でどんな子どもになってほしいかで目標を考える。問題行動だけを押しさえつけようとしても悪化するのでは、根本的なことを解消しようとしている。学校の席の配置などの環境設定をして落ち着いたところで指導するようにしている。社会の中ではどうかというと、まだ配慮は行き届いてはいないと思われる。
- 今年、初めて民生委員の方から声をかけていただいた。下校の見守りをしているが、小中学生の下校時間に特別支援学校の児童生徒が来ることがあるが、何と言葉をかけたらいのかわからないと相談があった。障害のある子どもについて研修を行い、子どもたちについてPRが必要だと感じた。子どもの問題行動の要因や不安な気持ちを伝えていき、子どもについて理解できるようにPRする機会を設けたい。
- バスに乗車する方で、声を出したり、前方や後方に動いたりするので、同乗の小学生が怖がって泣いていた。バスの運転手はその行動を注意すると一時良くなるが繰り返される。周りの大人が、小学生に説明するのは難しい。交流などしていると良いかもしれない。
- 上瀬谷小学校の児童と交流をしている。大門小学校では、本校の教員が多様な子どもについての授業をしている。小中学部と近隣の小中学校との居住地交流も年数回実施している。

(2) 地域の協働による教育活動について

- 瀬谷区で実施される園芸博を盛り上げたいと思っている。それに伴った道路工事のために道路が混雑している。スクールバスのルートを臨機応変に変更できるとよい。園芸博の工事の白い壁に子どもたちの絵がある。草刈りに参加するなどエキスポの宣伝とともに、地域の方へアピールできるのではないかな。
- 個人情報の関係で外部に出せないこともある。学校としては外部の行事にも参加させたいが、やめておこうとなる場合もある。
- 施設では、親を離れて入所している子どももいる。それを知られたくない保護者もいる。
- 障害児をネット等にアップしている保護者もいる。少しずつ見方が変わってきている。
- 写真を撮るときに工夫をする。足だけ、手元だけなど。地区センターの清掃の際には、清掃道具を並べた写真を撮った。顔がなくてもアピールはできる。

(3) 支援学校に求められるもの

- ライフステージだと、高等部卒業と卒業後のところ。卒業後にグループホームを考えている場合には、グループホームの見学に、施設スタッフ、学校の先生や保護者と見学する。学校と施設が連携して、その先に繋げていく。福祉事業所同士はつながりやすいが、学校の様子を見せていただくことで、次へつなぐことができ、切れ目ない支援ができた。
- 移行は大切にしている。卒業近くになってから進むケースもある。学校はいつ見に来ていただいてもよい。保護者の許可があれば、いつでもウエルカムである。
- ライフプラン、キャリアプランを小学部という若いうちから考えてほしい。「企業と語ろう in せや」を実施した。将来を何となくとしか考えていなかったり、何かやればそれでいいと思っていたりする保護者が多い。子どもの将来について、保護者と本人とで考えてもらうことが必要である。保護者は学校が考えてくれるかと思ってしまうことも多い。主体は本人と保護者である。
- 高等部の話で多いのは、何となく小学部から考えておく保護者も安心できるということである。
- 中学部向け説明会では、皆さんと一緒に進路を決めていこうと話している。自立することを求められる家庭もある。保護者は仕事に就いたら終わりだと思っている。
- 保護者は日々の生活にいっぱいいるところがあるので、どう働きかけたらよいか。友達の話であるが、パン作りが得意なお子さん、パンフレットをもらえればと思っていたが、結局はパン作りではない仕事に就いた。学校から資料が貰えなかったといっていたが、どの段階で伝えたらよいか…。小、中、高等部と、学校とは長い付き合いなので。
- カリキュラムなどによるが、小、中学部から進路学習に取り組んでいる。
- お子さんたちが実体験できる事業所もある。地域の小中学校の支援級についてはわからないが、小中学校の教員向けに進路の話をしている。広く発信する必要があるかもしれない。HPに進路の話を載せていくことはできる。
- 直接進路担当が話すことはないが、担任を通して返すようにしている。
- 学校を消防団やお寺で借りたりしている。学校に入っていけないと思っている方もいる。交流する機会がなかったからだと思う。入ったことがない方が、マラソン大会で入ってくることで知ってもらえる。交流を考えていても良いのでは。「そば祭り」など蕎麦を栽培して製粉し、麺にして喫食していた。畑を手伝ってくれたら可能ではないか。協力してもらえたら3年後には復活させられるのでは。外の畑では、駐車場として学校を使わせてもらった。
- パン屋で働きたかった話だが、本人がなりたいたいと言っているが、おいしいパンが作れるのか。なりたいたい気持ちとできることは違う。やりたいこと、できること、どこかで見極めることが必要になる。また、大手のパン工場なのか、町のパン屋さんなのか、様々考えていくところが支援学校ではないか。

5 まとめ

校長より、「地域のことを考える良い機会になった。ICTのことなど、時代の進歩を感じる。変えること、変えてはいけないことを見極めていくことが大切である。今日の意見を踏まえた取組を行い、3回目に報告する。」との発言があり、閉会となった。